

(6) 久万高原ブロック (久万高原町)

～産地づくり～

生産者の高齢化が著しく進行するなか、夏季冷涼な気候を活かした夏秋野菜における新たな栽培者の確保・育成や生産技術の向上による産地振興を図ります。

また、単収の低い農家の要因分析とその課題解決に向けた対策の推進や技術指導強化等を図ることで、安定した生産量を確保するとともに、生産者の高齢化に対応できる省力化技術の導入や、労働力の確保対策を講じながら、産地の規模拡大を図ります。

～推進品目や産地づくりの方向～

○若手栽培者を核としたトマト産地の復活

【取組】

- ① 久万高原町営農支援センターを拠点に、新規就農者の確保や生産者の栽培技術の向上を図るための勉強会〔図1〕（6回）を開催するなど、産地復活を支援
- ② 単収が伸びない生産者の要因を解明し、改善指導を実施
- ③ 生産性向上のため、作成した技術マニュアルを活用し、個別指導を実施〔図2〕
- ④ 農業公園研修生や新規就農者に対し、夏場の生産・品質安定対策を指導

【成果】

- ①
 - ・ 農業公園研修生を新規で3人確保
 - ・ 勉強会を通じて、栽培技術や土づくり、簿記記帳、農作業安全等の基礎技術が向上
- ② 全体の平均単収が向上：9.7t/10a〔R4：9.4t/10a〕
- ③ 新規就農者の単収が向上：14.4t/10a
- ④ 来年度、細霧冷房システムを2人導入予定



図1 研修生を対象とした勉強会



図2 トマトの栽培技術指導

○ピーマン栽培における省力化の推進と産地の規模拡大

【取組】

- ① 肥料高騰対策として5試験区を設置し、低コストの施肥資材の比較・検討を実施〔図3〕
- ② 労力に見合った栽培方法の提案と基本技術を徹底
- ③ 労働力確保対策として、農福連携等を推進

【成果】

- ①
 - ・ 5試験区のうち、慣行区を除く試験区において低コスト施肥資材の有効性を確認
 - ・ 次年度、地域への導入に向け2試験に絞り試験を実施
- ②
 - ・ 平均収量の増加：6.3t/10a〔R4：6.2t/10a〕
 - ・ 販売額の増加：2.72億円〔R4：2.15億円〕
- ③ 福祉事業所による収穫作業体験を実施し、施設支援員や利用者の知識・技術が向上



図3 施肥資材比較試験ほ

～地域づくり～

就農希望者に対し、町の農業研修制度を活用して、トマト栽培や経営管理等の研修を実施します。若い新規就農者には、青年農業者組織での活動を通して地域内外での仲間づくりを支援するとともに、スムーズな地域への就農と定着に努めます。

また、規模拡大を目指す農家等に対し、スマート農業等省力栽培技術の導入を支援するとともに、人・農地プランの実質化等を通じて農地の集積を図り、地域の担い手として育成します。

中山間地域の夏季冷涼な気象条件を活かした夏秋期の出荷品目や土地利用型作物（加工用野菜、雑穀、さといも等）の拡大・活用等による農業所得の向上と地域の活性化を図ります。

営農に関する情報共有システムを構築し、映像によるリアルタイムな情報交換と現場の課題解決を図るため、高速情報通信網の活用を含めたスマート農業の導入を推進します。

～推進対象や地域づくりの方向～

○地域農業を支える新規就農者の確保・育成

【取組】

- ① 就農候補者に対して、町の研修制度を利用し、栽培技術や経営管理等の研修を行うことで就農を後押し
- ② 新規就農者に対し、関係機関が一体となり、講習会や生育調査を兼ねた巡回指導（8回）等を行うことで就農定着を支援
- ③ 若い就農者に対して、青年農業者組織への加入を推進し、集団活動を通じた仲間づくりを支援するとともに、町広報誌（7月号）での紹介や、栽培技術の情報交換などを通じて交流を図り、地域への定着を推進 [図4]、[図5]

【成果】

- ①
 - ・新たに3人が農業研修を開始 [R4：4人]
 - ・新規就農者：4人※ [R4：2人]
 - ※内訳：トマト3人、ミニトマト1人
- ② 就農3年後定着率100%を維持
- ③
 - ・青年農業者組織への新規加入数：7人 [R4：4人]
 - ・組織活動のPRにより、地域住民からの活動に対する理解が促進



図4 先輩農家の話を聞く
青年農業者



図5 町広報誌で青年
農業者を紹介

○担い手型水田農業の推進

【取組】

- ① 「水稲」の経営規模拡大志向農家に対する水位センサーの省力技術（スマート農業）の導入するとともに、実証結果を栽培講習会で説明し、スマート農業の導入を啓発 [図6]
- ② 町内18地区（全集落）で、地域計画作成に係る説明会（2月）を実施
- ③ 水田農業に取り組む担い手に対し、水稲の生育調査や病害虫一斉調査（2回、123か所）、栽培講習会の開催（7月：36か所、115人参加）等を通じて高品質化を支援

【成果】

- ① スマホを使用した水位の確認や給水の開閉が可能な水位センサーの導入により、水管理が省力化（モデル農家）
- ② 次年度末を目途とした、地域計画作成に向けた意識づけ
- ③ 米の管内1等比率：91.6%



図6 水田用水位センサーの設置

○農家の6次産業化の推進

【取組】

- ①
 - ・雑穀の生産振興を支援するため、現地展示ほ場を3か所設置（雑穀3種：「地とうきび」、「たかきび」、「こきび」）
 - ・ブランドづくり推進会議（3回）を開催 [図7]
- ② 雑穀を用いた郷土料理を伝承するため、料理講座を開催
- ③ 町内の飲食店（5店舗）での調理指導や雑穀を使った新たな商品開発を支援

【成果】

- ① 雑穀の栽培面積：230a [R4：220a]
生産者：17人 [R4：14人]
- ② 郷土料理3品目（はな粉ねり汁、たかきび団子汁、こきび餅）について、町内小学校児童（2校）と上浮穴高校生に伝承
- ③
 - ・「たかきび」を代替肉として使用した「クーマカレー」を道の駅みかわでメニュー化 [図8]
 - ・町内福祉施設と連携し、地とうきびを使用したマドレーヌ、クッキー及びショートブレッドを作製し、道の駅等での販売を開始



図7 雑穀の実証展示ほ



図8 クーマカレー

～基盤整備による担い手への農地集積の加速化と果菜類の産地規模拡大～

○農業用水の安定確保と担い手への農地集積

【取組】

- ・高齢化や人口減少による担い手不足と荒廃農地の発生を食い止め、担い手への農地集積や新規就農者の定着と「トマト」や「ピーマン」等の夏秋期果菜類の産地規模拡大、出荷品目の増強を後押しするため、農業用水の安定確保と農作業の省力化や効率化につながる農業水利施設の更新2地区（明神地区、和田ノ窪地区）、用水路のパイプライン化、暗渠排水の設置等を2地区（ナバラ地区、永子地区）で実施

【成果】

- ・農業水利施設の更新工事完了
 - 〔明神地区 用排水路：958m [図9]
 - 〔和田ノ窪地区 頭首工：1か所 [図10]



図9 更新工事が完了した明神地区の用排水路



図10 更新工事が完了した和田ノ窪地区の頭首工

～足腰の強い畜産業を振興します～

○足腰の強い畜産業の振興

1 四国カルスト牧場の取組み

【取組】

- ① 放牧衛生指導指針に基づき、放牧牛の定期的な衛生検査（健康チェック）による疾病等のまん延防止対策を指導
- ② 市町、農協と連携し、夏期に放牧地（約12.4ha）の雑草防除を2回行い、有害雑草の駆除や草地の改良指導を実施

【成果】

- ① 放牧牛の衛生管理、牧場の清浄性を確保 [図11]
- ② 放牧に適した植生を維持



図11 四国カルスト牧場で
の衛生検査

2 媛っこ地鶏の取組み

【取組】

- ・生産者が高齢化のため廃業することから後継の新規就農者の確保のための活動を久万高原町と実施 [図12]

【成果】

- ・新規就農希望者1名を確保し、鶏舎、飼養方法、食鳥処理等について助言指導を行い、2月末から飼養を開始



図12 媛っこ地鶏の新規就農者への鶏舎構造等の指導

3 家畜伝染病侵入防止の取組み

【取組】

- ・管内6戸※の農家を巡回したほか、防疫演習や研修会を実施し、飼養衛生管理基準の遵守状況の確認、必要な指導、家畜伝染病等疾病に関する情報を提供
- ※内訳：肉牛4戸、豚1戸、肉用鶏1戸

【成果】

- ・家畜伝染病等疾病に対する農家、関係団体等の意識向上



図13 関係者と実施する防疫演習